



俳諧御傘
三

特別
6041
3





56-4076

福徳の傘



歌

呼子鳥

古今の大事

とれ

も傳ふを所人

とむさふをの事なりと

を以て連歌神と割と所家

小の難得よの傳ふを所と

正神とを所とを言はる

くはらうを言はる

るを言はる

神とを言はる

宗は言はる

死を言はる

と獨吟も言はる

ぬ交あうらるる勢乃ち方とて
おもものなりとて後より
よるくとも迷懐も人倫も
世よしむ時迷懐の世乃ち字
乃ち教あるあもよきそひひ
よしむ時迷懐乃世の所成
身一あつたよるすけしとて
言ひ世をまてて人し世とて
人も同じ事らるるに奉り
あよ又字あれしとて迷懐
乃ち世の世よあもて後より
とのきし世なれは世の
あもあつたよるすけしとて
世乃ちまて後よりあり
連よも世とて後よりあり
とてあつたよるすけしとて

あつたよるすけしとて
しとて世の世よあもて後より
も後より後よりあり
世よあつたよるすけしとて
云時し世をまて後よりあり

よるひふとらるる

二十年軍とてとて又年
乃ち字をく後よりあり
よるひふとらるる
字の二句とて連よるひふ

よるひふ

世二句とて
世二句とて

秋さび

秋さびとて
よるひふとらるる

之てしやとあはき世周いん二
 難くもも種物よ二句を
 百約よき世とも世生を
 若くは物たつひく二まかに
 美名一甚いさう意い意い兼い兼い兼い兼い
 色よつひく今一は二句あり
 色一清形をさうあさしう
 甚いあ乃まよき世とつひ
 よハ形を種ともく二世も
 意と兼あつハ二句去る
 苜蓿くわんとまき難く

青

又阿ふよあはす物と
 碧乃字よぬ句連り
 きくへと難く二句まへ
 若くは二句種へ二句若乃
 字とく二句二句いハ文

若よあり二句いと若と
 若なきうとと若と若
 とも若く又い乃字ハ新
 式よ二句若と二句二句
 連よ若と二句二句二句
 乃和と若り難く二句二句
 一ハあんやと若いせう若いせう若いせう
 若と二句の内わらう今一
 若くは二句若と二句

碧乃字

初若ちり又文と
 乃字と若と
 わらう若と二句若と二句
 二新式よ若と二句若と二句
 わらう若と二句若と二句
 若と二句若と二句若と二句
 若と二句若と二句若と二句
 若と二句若と二句若と二句

横川 ありきよわくはふ
はらり

齡 の三より四より 年の字但敷の七十半

はるに増えたるは新式のうち
紙をききし紙袖乃不よま
又事おしそれ新式を情学
乃名^{あひせう}進^{しん}進^{しん}の^{あひ}進^{しん}の^{あひ}進^{しん}の^{あひ}進^{しん}
年久^{せん}久^{じう}の^{あひ}穿^{せん}穿^{せん}の^{あひ}穿^{せん}の^{あひ}穿^{せん}
る^{あひ}連^{れん}連^{れん}の^{あひ}持^ぢ合^{ごう}と^{あひ}あ^あは
一^{あひ}同^{どう}より^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
を^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
は^{あひ}く^くは^{あひ}故^こお^{あひ}あ^あは^ああ^あは^あ
和^{あひ}と^{あひ}去^こ去^こを^{あひ}と^{あひ}の^{あひ}と^{あひ}一^{あひ}故^こ
く^{あひ}は^{あひ}感^{かん}感^{かん}を^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^あ
は^{あひ}一^{あひ}十^{じう}条^{じょう}の^{あひ}た^たま^{あひ}づ^{あひ}と^{あひ}あ^あは^あ

ありん久又思^{おぼ}この^{あひ}不^{あひ}及^{あひ}あ^あは^あ
わ^{あひ}ん^{あひ}久^く又^{あひ}思^{おぼ}この^{あひ}不^{あひ}及^{あひ}あ^あは^あ
三^{あひ}そ^{あひ}ら^{あひ}回^{わい}え^{あひ}ら^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^あ
乃^{あひ}字^じを^{あひ}二^に句^くさ^{あひ}う^{あひ}ひ^{あひ}と^{あひ}あ^あは^あ
そ^{あひ}や^{あひ}つ^{あひ}ふ^{あひ}時^じに^{あひ}不^{あひ}及^{あひ}あ^あは^あ
ち^{あひ}乃^{あひ}字^じよ^{あひ}年^{ねん}の^{あひ}又^{あひ}字^じあ^あは^あ
と^{あひ}つ^{あひ}ん^{あひ}く^{あひ}乃^{あひ}字^じは^{あひ}年^{ねん}穂^ほ集^{あひ}
表^{あひ}下^{あひ}と^{あひ}是^{あひ}ホ^{あひ}の^{あひ}と^{あひ}乃^{あひ}字^じよ^{あひ}と^{あひ}
ら^{あひ}乃^{あひ}教^{あひ}を^{あひ}字^じに^{あひ}た^{あひ}と^{あひ}あ^あは^あ
古^{あひ}人^{あひ}か^{あひ}ん^{あひ}漢^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^あ
く^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
る^{あひ}との^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
十^{あひ}が^{あひ}入^{あひ}る^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
よ^{あひ}の^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
る^{あひ}と^{あひ}あ^あは^ああ^あは^ああ^あは^ああ^あは^あ
り^{あひ}の^{あひ}時^じと^{あひ}四^し十^{じう}年^{ねん}と^{あひ}六^{ろく}十^{じう}年^{ねん}と

橋はしと云ふ一及こら乃をよみおとも
 花乃字よすも一向きうとん
 次花橋と云ふ魚橋とつけし
 もよも花乃字の橋まう
 き候なりう花をやめしむ
 くのも乃なる山家もぬれし
 花橋と云ふ時し花乃字より
 二句橋なるし世の九種中
 相敷をさしうへ橋をさるん
 そよ橋とも字道よるし
 けくとり白ひとらあけいなよ
 なるんうし次をぬる天智
 天智の法あよ橋と云ふ
 花さるその葉さる枝りお
 をけとまうしとさるの木は
 けりし道理もさるなりし

花を貴然し橋と云ふ
 お火よ咲白の洞さるても
 けなよおろし連よの一夜ま
 白乃相られも橋氏の入る
 なるまうと故人さるしけ
 よも橋とら花ありもさる
 一も橋とら花ありもさる
 花よのひく今一まへしけ
 よだのくきくくくくくく
 きんりんや別橋久年母
 家相本橋乃るりうしむ
 いし寸とさるを橋くやせ
 友よもさるし次林りまうよ
 るりくふこの屋うの橋され
 しは間相をうく橋二乃
 亦よ今一白まへとら連し

面よせさるし珠乃句の三句ま

玉乃結

命の久詞をなと連

懐よる序し珠よる意あつぬ
玉のをねをまへ今一ありね
結よとの結をなめくつふ
玉乃結又右字よあつる
玉のをまへつわると續つる
女乃らへ又玉れを柳とつふ
系柳をなめく云又女のうこ
流むく結を玉のをまへつ
とよありもよの連懐うも
わく次命よもあつる
は内を一玉乃をまへつ
はと序しとよ命よのあき

まへつる次命乃あよの句編

乃事し玉乃結とらふ詞のね

をまへつ海し玉乃をまへ

命よ同しねよとらふ次命

と結よ序しとも同家のあ

後素量よね後源素あつ

とよ命よと玉乃をまへ

る面を結し素乃字と

の乃ららふとと續ゆなわ

命あつぬ玉乃結よのつて

とも序しつと玉乃結の

玉あつる結とらふよなれ

と面よつて結つる面と結

と玉乃玉乃の二句まへ

の乃ららふぬ玉乃をまへ

よとらふぬ玉乃をまへ

そりば麻をぬきぬきぬきの洞入
し皆極種よ二句きく林し
とめ回よ麻のきく又の種を
と所居り種をく結くも種
種よいのり次回よくわ世ま
とん付へく寸目さよ成
田乃字よ首然きりは又首
稲畔田畑とて首二句き
しるの種よ田乃字よきり子
田乃字よしきりり次位落
乃字然きりりよあ田の所り
左うけし付句いりり所へあ
かりとめりりりりり種よ
とめしはらりりりりり種
田乃字首のり回をくしと
まき田乃字とら又の種り

くゆりも林し

田乃字

生田田と浮田乃種
亦乃敷田乃字よ三

白さわりこそ種も又付くあ
り所ありりりり林乃字よと
種田乃字よ又句きへ

ゆのじれる

田乃面の居り種
乃種と又はわれ

とも田の字よ又句きき種田
と田亦の名も田の字よの連
り又句きハ種結りり二句き
るしとゆの田の連字よ七句
るれし種結りり又句き

立田よ

立の字よ二句種と種
まよのきりり種と種

とも付くもくきりり付

と終て未休の秘ふふの迷入
るれそ形式よ物よふも病
と歌さるものこしは後集より
ものへ〜〜〜
乃第〜〜〜
又阿ふ〜〜〜
定よ三句ま〜
場およ〜
をいあ〜

ぬえ加進に
音を扱よゆり大成得ぬ
も不替々立回りの

たそつ終
をいあ〜

多終相書

まつ〜
松乃字の連よ七句離よ六句
も〜
界白の三句ま〜

たろふ

あひよ〜
あ〜
乃同〜
あ〜

ぬもさしむらうしん原をねむ
 うしつ洞を吟味とれむ物
 とる者ありのそれとあらしと
 一もあらしとあらしと
 と同洞と道あらしとあれ物
 乃義理あらしとあらしと
 けくあらしとあらしと
 あらしとあらしとあらしと
 とあらしとあらしとあらしと
 同あらしとあらしとあらしと
 てあらしとあらしとあらしと
 あらしとあらしとあらしと
 あらしとあらしとあらしと

一かあらしとあらしとあらしと
 小あらしとあらしとあらしと
 かあらしとあらしとあらしと
 あらしとあらしとあらしと
 きあらしとあらしとあらしと
 花あらしとあらしとあらしと
 てもあらしとあらしとあらしと
 とあらしとあらしとあらしと
 乃あらしとあらしとあらしと
 久あらしとあらしとあらしと
 とあらしとあらしとあらしと
 乃あらしとあらしとあらしと
 ねあらしとあらしとあらしと
 ありあらしとあらしとあらしと
 ありあらしとあらしとあらしと
 とあらしとあらしとあらしと

たつと
玉系

詞二句をことわざ
女もいふれぬ義を

まこと解るべし付くもくゆ
くし寸形式うもと痛赤紙
物乃而よ玉系は詞依為神
不擇定とゆわ

ちの
雲水

あはれよあはれ寸形此歌
さうとひ乃とあはれ歌家
あはれお酒をゆき

新

新の字はあはれよ
新は二句に成候ことし

時も二句に焼の字よは面を
きつひの巻くよは又句を
非極物非山歎きを抄よ
新よらうとよ又句をゆ
あはれあはれと解よらうと句

まへに歌丸れとてく焼

乃とよい中の中鳴りてと

流るるあはれとことあはれ火

をゆきとらふ句可産よ一

志があはれ巻くことひと又

句を系よはあはれと解と

句はあはれと解と解と

新よはあはれと解と解と

あはれと解と解と解と

とく面を解と解と解と

焼音ると解よは解と解と

三句をあはれと解と解と

あはれ火

新はあはれと解と解と

あはれと解と解と解と
あはれと解と解と解と
あはれと解と解と解と

きしがひおのめくひるるに
りし初めよあし寸とあし
さくしゆ
三回娘 秋は非神祇を
名取よ成こそ成
宮へくきさかぬるくよも我
らまてりわ名神非りぬの
乃得しわあもあわ不可
さか娘と初めりく名取
あしき神のみ秋乃及し
り次遠化乃神の名こそ
下の娘を流しこと所もの
又万葉集よあまも一あり
されし句神よ依てまきりも
成るし連よ二句の物をも
るれし離るも二句の物
しあ乃非い今二あり

神

秋は非神祇を
名取よ成こそ成
宮へくきさかぬるくよも我
らまてりわ名神非りぬの
乃得しわあもあわ不可
さか娘と初めりく名取
あしき神のみ秋乃及し
り次遠化乃神の名こそ
下の娘を流しこと所もの
又万葉集よあまも一あり
されし句神よ依てまきりも
成るし連よ二句の物をも
るれし離るも二句の物
しあ乃非い今二あり

神

秋は非神祇を
名取よ成こそ成
宮へくきさかぬるくよも我
らまてりわ名神非りぬの
乃得しわあもあわ不可
さか娘と初めりく名取
あしき神のみ秋乃及し
り次遠化乃神の名こそ
下の娘を流しこと所もの
又万葉集よあまも一あり
されし句神よ依てまきりも
成るし連よ二句の物をも
るれし離るも二句の物
しあ乃非い今二あり

辰のう海と

辰のう海と

新

非^レ生^レ歎^レ子^レ句^レよ^レ入^レ一^レ志^レ
相^レな^レれ^レし^レ歎^レよ^レ讀^レく^レ志^レ

二^レの^レあ^レる^レ事^レき^レき^レあ^レる^レ事^レ排^レふ^レ

世^レ俗^レ乃^レむ^レむ^レり^レと^レあ^レる^レ事^レ月^レよ^レた^レ

は^レら^レり^レる^レれ^レし^レ相^レな^レる^レ事^レ

一^レと^レ入^レし^レ今^レ一^レあ^レる^レ事^レよ^レ花^レ

あ^レり^レ新^レ言^レを^レ新^レ王^レ新^レ女^レ竜^レ

虎^レ天^レ新^レ竜^レ以^レ龍^レ首^レお^レの^レ歎^レ

を^レ歎^レよ^レよ^レ入^レん^レく^レも^レ新^レ乃^レお^レ

よ^レも^レ入^レく^レ寸^レ新^レ入^レよ^レ讀^レく^レ事^レ

へ^レな^レる^レ事^レ新^レ腦^レ新^レ騰^レ新^レ骨^レ

新^レ樹^レ言^レを^レ龍^レ竜^レ身^レ新^レる^レ竜^レ

眼^レ肉^レ天^レ子^レの^レ新^レ歎^レ新^レ骨^レ車^レ

を^レお^レへ^レる^レ事^レ一^レ志^レお^レよ^レも^レ入^レく^レ

又^レ讀^レよ^レ入^レん^レく^レも^レの^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ人^レの^レ事^レ

の^レ事^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

新^レ乃^レ口^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

一^レ志^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

乃^レあ^レる^レ事^レ乃^レあ^レる^レ事^レ

移り通るれはわさび
を好くぬも耳よち移女
鬼虎ふと依て百物りち
さぬそのの屋さふさの連
飲しゆら事あそむ程の淋
消よのわさびささくさ
道左とぬちささわわさく
成る人志のんきん体第を
高きと被ぼるのささくさ
たされし連飲よきさゆれ
とい悲どわわささささ
我もさへふの理あささ
もわさわわわわ人乃身
おろろろろろろろろろ
移しおろろろろろろろ
白よ二句のそれとわさび

人かぬるわさびと二
とらささ味をさささ
ぬりぬ人し合息ささ
ささ

七夕 牽牛織女ささ
月日二句ささわ

七夕 暫かに二句ぬへしわ月
乃川志あふささ此後
ささささ天象り二句ぬ
くささわセ夕よささ川之句
ぬさ紅葉橋鶴乃橋野系
く歌形をささ

七夕 連ふ二句さささ
七夕と移よさささ
さささ二あさささ
し半句わさのぬささ

しやまへくし次

セリノ衣

衣敷りわら守と
くも衣乃字ま

みふま

田養の鶴

山敷くわく次
曲之田よん衣を

ここのよん面を地衣敷り

も濃袖おも不短

山

離よ之わら一ひ名はぬ
ふか

音

三のわらひ肉まひ名はぬ
わ

山

山敷くわく次
曲之田よん衣を

まも山敷くわく次
曲之田よん衣を

わら守りわら守り

まも山敷くわく次

まも山敷くわく次

わら守

根

山敷くわく次
曲之田よん衣を

連よ一わら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

わら守りわら守り

平三

平三

